

談話標識研究のエッセンス

廣瀬 浩三

0. はじめに

談話標識 (discourse markers) は、これまでさまざまなアプローチから研究されてきたが、初期の記述的研究として Halliday & Hasan(1976) があり、その後、文レベルを超えた会話分析が進む中、Schourup(1985) と Schiffrin(1987) による代表的な論考がある。こうした生の言語資料の分析とともに、語用論の発展に伴って、Levinson(1983) においても談話標識が注目された。そして、関連性理論の登場とともに、その存在価値が言語理論の中でも認められ、D.Blakemore の一連の研究 [Blakemore(Brockway) (1981), Blakemore(1987), Blakemore(1992), Blakemore(1997)] によってさらにその重要性が大きくなり、一つの研究領域として幅広く認識されるようになった。こうした一連の研究を独自の立場から集約したのは、B.Fraser [Fraser(1990), Fraser(1996), Fraser(2009)] であった。従来の談話標識研究が、個々の談話標識の記述的研究が中心であったのに対し、談話標識、あるいは関連するさらに幅広い言語表現を語用論的標識 (pragmatic markers) として機能分類し、体系的にまとめようとしたのである。また、コーパス言語学の発展も談話標識研究に大いに貢献し、その集大成の一つとして Biber *et al.* (1999) があげられ、談話標識が大きく取り上げられている。

筆者の談話標識研究は、上記の代表的な先行研究と、さらにその他の膨大な先行研究に支えられているが、以下、筆者なりの到達点として、談話標識のエッセンスをまとめるとともに、談話標識研究の将来展望を考えたい。

1. 談話標識についてこれまで明らかにしたこと

筆者の談話標識研究は、個別的な談話標識の分析と一つの談話機能に係る一連の談話標識の動きを明らかにするところから始まった。¹その後、関連性理論における談話標識の考察を経て、談話標識の体系化へと向かった。²談話標識を体系的に捉える際にまず取り組むべきことは、その分析対象をどのように定めるのかということであった。そうした研究課題は、その名称をめぐる論争にも象徴されており、数多くの名称が充てられてきた。³さまざまな名称の中で、「談話辞」(pragmatic[discourse] particles) が好んで用いられた時期を経て、現在では、談話標識 (discourse markers) が定着しているが、周辺的な言語表現を幅広く取り込み、語用論的標識 (pragmatic markers) もよく用いられるようになっている。

談話標識に関してなかなか共通認識が得られないまま、それぞれの立場で談話標識研究は進んでいったが、Schourup(1999) により理論面を含めて一定の集約が行われ、筆者としても広義に談話標識を捉え、以下のような談話標識の一般的特徴をまとめあげた。

＜談話標識の一般的特徴＞

音韻的・語彙的特徴	<p>①一語からなるものが多いが、句レベル、節レベルのものが含まれる。</p> <p>②伝統的な単一の品詞には属さない。</p> <p>③通例ポーズを伴い、独立した音調群を形成することが多い。</p> <p>④その談話機能に応じ、様々な音調を伴う。</p>
統語的特徴	<p>①文頭の位置に現れることが多いが、文中、文尾に生じるものもある。</p> <p>②命題の構成要素の外側に生じる、あるいは命題内容の統語構造に緩やかに付加されて生じる。</p> <p>③談話標識の有無によって、その談話標識が生じている発話（文）の文法性は左右されることなく、選択的である。</p> <p>④複数の談話標識が同時に生じることがあり、その配列が定まっている。</p> <p>⑤談話標識が単独で生じる場合があり、独自の談話機能を果たす。</p>
意味的特徴	<p>①それ自体で、文の真偽値に関わる概念的意味をほとんど、あるいはまったく持たないものが多い。</p> <p>②文の真偽値に関わる概念的意味を持つ場合にも、付加的に特有の談話的意味を表す。</p>
機能的特徴	<p>①多機能的である。</p> <p>②1つの談話標識が、ある文脈で同時に複数の機能レベルで働くことがある。</p>
社会的・文体的特徴	<p>①話し言葉で使用される談話標識が多いが、もっぱら書き言葉で好んで使用される談話標識もあり、言語使用域に変異がある。</p> <p>②アメリカ英語やイギリス英語、さらにニュージーランド英語などで好まれる談話標識があり、地理的な変異がある。</p> <p>③女性言葉により典型的に現れるものがあり、ジェンダー的な変異がある。</p> <p>④若者が好んで使用する談話標識があり、年齢的な変異がある。</p>

上記のような多様な特徴を備える談話標識を一つのカテゴリーとしてどのように考えるのかについては、認知言語学でいうプロトタイプのなカテゴリー化が妥当である。すなわち、ある言語表現を談話標識の成員として認める際に、上記の特徴すべてを兼ね備える必要はなく、成員としての特徴をどれほど保持しているのかによって、典型的な談話標識から、談話標識としては周辺的なものを階層的に緩やかに認めることで、数多くの言語表現を談話標識というカテゴリーの中で捉えることができ、分析対象として認めることができるのである。

談話標識について明らかにしなければならないのは、その談話機能であるが、その基盤として、Jucker & Ziv(1998:4)において指摘されているように、談話標識はいくつかの領域(domain)で機能することを認識しなければならない。⁴

The different studies of discourse markers distinguish several domains where they may be functional, in which are included *textual*, *attitudinal*, *cognitive* and *interactive* parameters. (談話標識の様々な研究では、談話標識が機能するいくつかの領域が区別されており、それらには、テキスト的、発話態度的、認知的、そして相互作用的なパラメーターが含まれている。) [イタリックは筆者]

Jucker & Ziv(1998)では、テキスト的 (*textual*)、態度的 (*attitudinal*)、認知的 (*cognitive*)、相互作用の (*interactive*) の領域で機能することが指摘されているが、これらの用語の中で、「認知的」というのは幅広い意味で使用されることもあるので、談話標識が情報の授受や新旧の情報と関わることから、筆者としては「情動的」という用語を使用しておきたい。また、「相互作用の」という用語についても、むしろ対人間の調整機能を果たすといった方が分かりやすく、「対人関係的」 (*interpersonal*) という用語を使用することし、松尾・廣瀬・西川(2015)では、談話標識に大きく以下のような4つの機能を認めた。

◀ Textual Function ▶ (テキスト的機能)

談話標識は、話し手が談話をどのように組み立てて述べていくのかを合図する。直前の文との関係を表すことが多いが、より幅広い談話の構成、あるいは一連の談話全体と関わって、談話の終結等を合図する。

◀ Informational Function ▶ (情動的機能)

談話標識は、話し手が新情報や旧情報として情報を授受することを合図する。

◀ Attitudinal Function ▶ (発話態度的機能)

談話標識は、話し手がこれからどのようなスタンス (態度・感情・様式・確信度・明白性) で陳述するのかを合図する。

◀ Interpersonal Function ▶ (対人関係調整的機能)

談話標識は、話し手の聞き手に対する敬意や思いやりを合図する。他方、自らの自己防衛のために、ためらいや控えめな態度を表すこともある。

上記の4つの基本的機能をさらに細かく分類することによって、談話標識のさまざまな機能的側面が明らかとなり、談話標識の全体像を浮き彫りにすることができる。

(テキスト的機能)

①付加的機能	also, another thing is, and, as well as that, besides, further; furthermore, in addition; moreover, on top of it all (off), on top of that, plus, to cap it all (off), too, what is more, etc.
②同格的言い換え機能	in other words; I mean (to say); namely; that is (to say); (to) put it another way, etc.
③同格的例示機能	for instance, for example, to illustrate, thus, etc.
④同格的比喩機能	as it were, like, more or less, kind [sort] of, so to speak [say], etc.
⑤強化機能	above all, actually, as a matter of fact, by no means, in actual fact, indeed, in fact, in particular
⑥制限機能	anyway, (or) at least, etc.
⑦逆接・反対・矛盾・譲歩機能	all the same, but, despite this[that], even so, however, in any case [event], in spite of this[that], mind you, nevertheless, nonetheless, notwithstanding, still, though, yet, etc.
⑧対照機能	meanwhile, on the one hand, on the other hand, whereas, while, etc.
⑨比較・類似機能	analogously, by the same token, equally, in comparison, in the same way, likewise, similarly, etc.
⑩一般化機能	in all [most ,many, some] cases, broadly speaking, by and large, in general, on the whole, to a great extent, to some extent, apart from, except for, etc.
⑪論理的・推論の結果機能	as a consequence, as a logical conclusion, as a result, consequently, so, then, therefore, thus, etc.
⑫とちり修正機能	excuse me, I beg your pardon, I mean, (I'm) sorry, etc.
⑬適正語句修正機能	actually, as you were, (or) better , I guess, (or) I should say, I take that back, in fact, let me put it this way, (or) maybe, more accurately, more precisely, more specifically, (or) (or) perhaps, (or) possibly, rather, really, (or) should I say, to be more precise, etc.
⑭制限的修正機能	anyway, (or) at least, well, etc.
⑮注意喚起機能	ah, all right[alright], eh, hey, listen, look, now, now then, oh, OK, right, say, so, well, well then, etc.
⑯話題提示機能	as far as ... concerned, as for, as regards, regarding, talking [speaking] of [about], with reference to, etc.
⑰話題順序立て機能	afterwards, finally, first(ly), first and foremost, first of all, for another thing(informal), for a start, for one thing(informal), initially, in the first[second, third] place, last(ly), last but not least, last of all, next, second(ly), then, third(ly), to begin [start] with, to open, to stop, etc.

⑱話題轉換機能	by the way, before I forget, just to update you, incidentally, now, OK, (all) right, on a different note, parenthetically, put another way, that [which] reminds me
⑲話題回歸機能	anyhow, anyway, anyways, as I was saying, at any rate, in any case, back to my original point, leaving that aside, returning to my previous point, to get back to the point, to resume, etc.
⑳談話展開機能	And?, But?, Because?, So?, For example?, For instance?, Like?, Meaning?, Namely?, No?, Oh?, Such as?, What?, Well?, Which is[was]?, Which means [meant]?, Yeah?, Yes?, etc.
㉑談話繼續機能	I don't know, I mean, kind [sort] of, like, let me see, let's see, well, you know, etc.
㉒談話要約機能	briefly, in conclusion, in short, in sum, to sum up, etc.
㉓談話終結機能	anyway, OK, etc.

(情報的機能)

①情報受容機能	ah, oh, yeah, yes, etc.
②情報想定機能	actually, etc.
③情報共有化機能	after all, you know, etc.
④情報焦点化機能	however, kind[sort] of, like, well, etc.

(発話態度的機能)

①評価明示機能	amazingly, amusingly, annoyingly, appropriately, artfully, astonishingly, cleverly, conveniently, cunningly, curiously, delightfully, disappointingly, disturbingly, foolishly, hopefully, ideally, importantly, incredibly, inevitably, ironically, (in)correctly, justifiably, justly, luckily, mercifully, naturally, oddly, predictably, prudently, refreshingly, regretfully, rightfully, sadly, sensibly, shrewdly, significantly, stupidly, suspiciously, thankfully, tragically, (un)luckily, (un)expectedly, (un)fortunately, (un)happily, (un)reasonably, (un)remarkably, understandingly, wisely, wrongly, etc.
②発話様式表示機能	bluntly, briefly, candidly, confidentially, crudely, fairly, frankly, generally, honestly, metaphorically, objectively, personally, precisely, roughly, seriously, simply, strictly, truthfully, to speak candidly, roughly speaking, to be honest, in all seriousness, rephrased, worded plainly, stated quite simply, off the record, quite frankly, speaking frankly, though not as frankly as I'd like to, in the strictest confidence, to be quite blunt about it, etc.

③確信・明白性明示機能	assuredly, certainly, clearly, conceivably, decidedly, definitely, doubtlessly, evidently, incontestably, incontrovertibly, indeed, indisputably, (most / quite / very)likely, obviously, patently, perhaps, possibly, presumably, seemingly, supposedly, surely, (un)arguably, undeniably, undoubtedly, unquestionably, etc.
④情報出所明示機能	allegedly, purportedly, reportedly, I have heard ..., it appears..., it has been claimed..., it is claimed..., it is reported..., it is rumored..., it is said..., one hears..., they allege..., they say..., they tell me..., etc.

(対人関係調整的機能)

①敬意・配慮機能	if you don't mind, if you like, if you please, If I may interrupt, If it's not too much trouble, unless I misunderstood you, unless I'm hearing it correctly, etc.
②自己防衛機能	apparently, at least, in my view [opinion], I don't mean to pressure you, but..., I'm no expert, but..., I'm sorry to have to ask you this, but..., I feel, I guess, I'm afraid, I reckon, I see your point, but..., I think, kind[sort] of, more or less, really, so to speak, that is to say, That may be true, but..., well, You have a point, but..., You're entitled to your opinion, but..., etc.

以上のように談話標識の機能を細分化した後、改めて談話標識の原点に立ち戻り、廣瀬(2018b)において、以下のように談話標識を定義づけ、その中核的な意味機能をまとめあげた。

「談話標識」とは、話し手が主に伝達しようとする発話メッセージ〔命題内容〕の周辺に位置し、聞き手がその内容を正しく理解するように意味解釈の仕方を合図する標識である。そして、その意味解釈の仕方を合図するにあたり、談話的志向性を備えており、文脈に応じ、談話構造、情報価値、話し手の態度表明・感情表出、対人関係などに聞き手の意識を向けさせる言語表現である。

3. 談話標識分析の難しさとその真実

前章で示した談話標識の一般的な特徴や機能分類によって、その全体像が見え始め、その中核的な意味機能を捉える際に談話標識の原点に立ち戻らざるを得ないところに談話標識研究の難しさがあると言える。その特殊性の本質的な要素として、上記の中核的な意味機能の中で示した「談話的志向性」が見いだせ、具体的にどのような談話志向性が顕在化してくるかは、実際の文脈を分析して初めて明らかとなるのである。こうした傾向は、談話標識として頻繁に用いられる基本的な談話標識、例えば、anyway, actually, well や I mean, you know 等において顕著である。発話態度を担う文副詞的な談話標識では、それぞれの

語彙の概念的意味から一定の談話的志向性の射程は定まってくると言えるが、frankly や honestly のように、相手にとって好ましくないと考える発話内容を述べることを示唆する特有の談話志向性が現れることもある。

このように、特定の文脈で、もっぱらひとつの機能を発揮する談話標識と、あるひとつの談話標識が、複数の機能領域で作用する場合が見いだせ、同時に複数の機能を果たす場合には、その主たる機能と付随的な機能を区別していく必要がある。特に、4つの機能の中で、対人関係調整的機能については、すべての談話標識の使用に関わる機能とも言え、その談話的志向性が強くなると、ポライトネスとの関わりが表面化していくのである。⁵

こうした談話標識の特殊性については、筆者とはまったく異なる立場から談話標識研究を続けてきた K. Aijimer においても指摘され、Aijimer (2013:149) において、語用論標識 (pragmatic markers) という用語を用いているが、意味的潜在性 (meaning potential) の考え方を援用し、筆者とほぼ同様の結論に至っている。

Pragmatic markers do not have a stable meaning, but a meaning potential, that is, a rich meaning representation where the meanings are related to each other in different ways. By studying the markers in many different text types and activities and with speakers we can get a better picture of what the potential functions, sub-senses and collocations are, how they are derived from core meanings and of the role of the literal meaning. (語用論標識には安定した意味はなく、意味的潜在性があるだけであり、すなわち、意味が互いに異なる方法で関係する豊富な意味的表示を表すのである。語用論標識を多くの異なるテキストタイプや言語活動、話し手との関係で研究することによって、その潜在的な機能や下位区分的意味、そしてコロケーションがどのようなものか、潜在的な機能が中核的な意味からどのように派生したか、そして文字通りの意味の役割がどのようなものであるのかをよりよく理解できるのである。)

上記の意味的潜在性の考え方というのは、すべての言語表現には、当然ある意味を伴うことになるが、それぞれ使用される文脈に応じて、具体的な意味が決まってくるという考え方である。筆者の言う「談話的志向性」で言い換えると、談話標識はそれ独自の固定された談話機能を安定的に保持しているというよりは、実際に使用された文脈との関係で、その談話志向性がダイナミックに顕在化してくる言語表現であると考えられる。

4. おわりに—談話標識研究の将来展望

本稿では、筆者のこれまでの談話標識研究を再整理しながら、談話標識の一般的な特徴、その中核的な意味機能、並びに談話的志向性を持つ特殊性を改めて指摘した。本稿にちりばめた談話標識のエッセンスによって、ある意味、談話標識研究の道具立てはそろったと言える。その将来展望として期待されるのは、基礎研究及び理論的研究の後の応用的研究である。

日本人英語学習者にとってますます英語発信能力の向上が求められていく中、談話標識に関する知識を習得し、論理立てて情報を発信していく術を身につけ、また英語理解においても発話者の真意を敏感に感じ取れる英語感覚を身につけていくことは極めて重要である。そうした状況を踏まえて、体系だった談話標識研究としてさらに必要なのは、機能別にグループ化された談話標識の使い分けを明確にしていくことである。そのような観点から、廣瀬 (2017) において、談話標識をシノニムの観点から記述する試みを既に行ったが、その談話標識の使い分けを記述していく上でキーとなるのは、談話標識と広く「言語使用域」の関係であると考えている。⁶そして、その談話標識の「言語使用域」を明らかにする手法として、どのようにコーパスを利用していかかが今後の大きな課題である。コーパス資料を利用して、談話標識使用の量的な特徴づけとともに、具体的な文脈分析を踏まえ、質的にどこまで追求できるかが、今後の談話標識研究の大きなチャレンジである。

筆者としても、談話標識研究への興味関心は尽きることがなく、さらに一つでも多くの言語事実を明らかにしていきたい。

注

- 1 個別的な談話標識を扱ったものに廣瀬 (1989a, 1989b) があり、anyway の中核的な機能として、「先行する談話内容を棚上げする」ことを見出し、その射程によって、話題転換や談話終結に至る機能を有することを明らかにした。また、廣瀬 (2015) では well の機能を徹底的に記述した。さらに、談話機能としての「談話修正」[廣瀬 (1988, 1998)] や「談話の展開」[廣瀬 (2001)] に係る様々な言語表現を取り上げた。
- 2 廣瀬 (2012, 2014) 及び松尾・廣瀬 (2014, 2015) を参照。
- 3 廣瀬 (2012) で以下のような主だったものを取り上げた：(i) discourse ~ : discourse connective, discourse connector, discourse marker, discourse modal, discourse modality indicator, discourse operator, discourse particle, etc. (ii) pragmatic ~ : pragmatic expression, pragmatic formative, pragmatic marker, pragmatic particle, etc. (iii) その他 : attitude marker, boundary marker, confirmation seekers, conjunctive adverb, connective, contextulization cue, editing(self-correction) marker, expressive particle, filler, frame marker, hedging device, half-conjunction, hesitation marker, hesitator, initiator, intimacy marker, interjection, particle, pop marker, prompter, repair marker, softening connective, starter, topic switchers, turn-takers, etc.
- 4 Schiffrin (2004: 67) においても談話標識が様々な機能領域で作用することが指摘されている : Discourse markers tells us not only about the linguistic properties (e.g. semantic and pragmatic meanings, source, functions) of a set of frequently used expressions, and the organization of social interactions and situations in which they are used, but also about the *cognitive, expressive, social*, and *textual* competence of those who use them. Because the functions of markers are so broad, any and all analyses of markers -even those focusing on only a relatively narrow aspect of their meaning or a small portion of their uses -can teach us something about their role in discourse. (談話標識によって、頻繁に用いられる一連の表現の言語的特徴 [すなわち、意味論的意味、

語用論的意味、語源、機能] やそれらの表現が用いられる社会的相互作用や状況の構成が明らかになる。そればかりか、談話標識の使用者の認知的、表出的、社会的そしてテキスト構成上の能力も明らかになる。談話標識の機能は非常に広範囲に渡るので、いかなる分析であろうとすべての分析で一談話標識の意味の比較的狭い側面や使用法のごく一部だけに焦点を当てた分析においてさえ一談話標識の談話における役割が何かしら提示される可能性がある。) [イタリックは筆者]

5 談話標識とポライトネスの関係については、廣瀬 (2019) を参照されたい。

6 談話標識と言語使用域との関係については、廣瀬 (2018) を参照されたい。

参考文献

- Aijmer, K. 2013. *Understanding Pragmatic Markers: A Variational Pragmatic Approach*. Edinburgh: Edinburgh University Press.
- Ball, W.J. 1986. *Dictionary of Link Words in English Discourse*. New York: Macmillan.
- Biber, D., S.Johanson, G.Leech, S.Conrad and E.Finegan. 1999. *Longman Grammar of Spoken and Written English*. London: Longman.
- Blakemore, D. 2002. *Relevance and Linguistic Meaning*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Fraser, B. 1990. "An approach to discourse markers." *Journal of Pragmatics* 14, 383-395.
- . 1996. "Pragmatic markers." *Pragmatics* 6(2), 167-190.
- . 1998. "Contrastive Discourse Markers in English." In A.H. Jucker and Y. Ziv (eds.). 1998. *Discourse Markers: Description and Theory*. Amsterdam: John Benjamins. 301-326.
- . 1999. "What are discourse markers?" *Journal of Pragmatics* 31, 931-952.
- . 2006. "Towards A Theory of Discourse Markers." In K.Fischer (ed.), *Approaches to Discourse Particles. Studies in Pragmatics Series 1*. Amsterdam/Tokyo: Elsevier Press. 189-204.
- Gumperz, J.J. 1996. "The linguistic and cultural relativity of inference." In J.J. Gumperz and S.C. Levinson (eds.) *Rethinking Linguistic relativity*. Cambridge: Cambridge University Press. 370-406.
- 廣瀬浩三. 1988. 「英語の談話修正表現について」六甲英語学会 (編) 『現代の言語研究』東京: 金星堂. 263-74.
- . 1989a. 「談話辞 anyway の分析」『語法研究と英語教育』11, 29-38.
- . 1989b. "A Discourse Grammar of anyway." 『島根大学法文学部紀要文学科編』11(2), 1-20.
- . 1997. 「Love means never having to say "What do you mean?"—メタ言語活動の諸相 (1)」『島大言語文化』4, 14-61.
- . 1998. 「メタ言語的観点から見た英語表現について」小西友七先生傘寿記念論文集編集委員会 (編) 『現代英語の語法と文法』東京: 大修館書店. 287-95.
- . 1999. 「Love means never having to say "What do you mean?"—英語におけるメタ言語的活動の諸相 (2)」『島大言語文化』7, 1-51.
- . 2000. 「語法研究の立場から見た談話標識」『英語語法文法研究』7, 35-50. 25

- 2001. 「談話の展開を促す談話標識」『英語青年』 Vol. CXLVII, No.7, 446-47.
 - 2003. 「関連性理論から見た談話標識」『島大言語文化』 14, 21-41.
 - 2012. 「談話標識を巡って」『島根大学外国語教育センタージャーナル』 第7号, 1-37.
 - 2014. 「談話標識を再考する」『島根大学外国語教育センタージャーナル』 第9号, 1-33.
 - 2015. 「Well の感覚」『島根大学外国語教育センタージャーナル』 第10号, 1-26.
 - 2017. 「談話標識のシノニムの記述を巡って」『島根大学外国語教育センタージャーナル』 第12号, 1-12.
 - 2018a. 「談話標識と言語使用域について」『島根大学外国語教育センタージャーナル』 第13号, 1-15.
 - 2018b. 「談話標識をよりよく理解するために」中村芳久教授退職記念論文集刊行会 [編] 『ことばのパースペクティブ』 開拓社. 368-379.
 - 2019. 「談話標識とポライトネスについて」『島根大学外国語教育センタージャーナル』 第14号, 1-11.
- Jucker, A.H. and Y.Ziv (eds.). 1998. *Discourse Markers: Description and Theory*. P&B ns.57. Amsterdam: John Benjamins.
- 松尾文子・廣瀬浩三. 2014. 「英語談話標識の諸相 (1)—英語談話標識研究の変遷」『梅光言語文化研究』 第5号, 1-38.
- 松尾文子・廣瀬浩三・西川真由美編著. 2015. 『英語談話標識用法辞典』—43の基本的ディスコースマーカー—. 東京：研究社.
- 松尾文子・廣瀬浩三. 2015. 「英語談話標識の諸相 (2)—談話標識についての基本的考え方と分析の観点」『梅光言語文化研究』 第6号, 1-51.
- Schiffrin, D. 1987. *Discourse markers*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 2001/2004. “Discourse markers: language, meaning and context.” In D.Schiffrin, D.Tannen and H. E. Hamilton (eds.), *The Handbook of Discourse Analysis*. Oxford: Blackwell. 54-75.
- Scourup, L. 1999. “Discourse markers.” *Lingua* 107, 227-265.
- 2001. “Rethinking well.” *Journal of Pragmatics* 33(7), 1025-1060.
- Schourup, L.C. and T. Waida. 1988. *English connectives*. 東京：くろしお出版.
- Sperber, D. and D. Wilson. 1986/19952. *Relevance: communication and recognition*. Oxford: Oxford University Press.